

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24520220

研究課題名(和文)近世琉球和文学の考究および沖縄版「伝統的な言語文化」としての教材化

研究課題名(英文) Study of the Japanese literature in early modern Ryukyu and making teaching materials of Okinawan traditional language culture

研究代表者

萩野 敦子 (HAGINO, Atsuko)

琉球大学・教育学部・教授

研究者番号：90343376

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：1700年代の琉球で平敷屋朝敏によって書かれた和文による物語の研究を踏まえて教材化するとともに、朝敏以降に作られた『雨夜物語』『恋路之文』の基礎的研究を行った。同時に、新しい学習指導要領に基づく国語教科書の教材を分析して「伝統的な言語文化」の学びをpushしたうえで、琉球の古典文学を教材化する方策を探った。

研究成果の概要(英文)：I have been studying Japanese tales written by Heshikiya-Chobin in Ryukyu of the 1700s, then made teaching materials. And I have been doing basically study of "AMAYO MONOGATARI" and "KOIJI NO HUMI". At the same time, I analyzed teaching materials of Japanese language textbooks based on the new course of study, so understood leaning of "Traditional language culture", then I explored a way to teach Ryukyu's classical literature as teaching materials.

研究分野：人文学(日本古典文学)

キーワード：近世琉球の和文学 平敷屋朝敏 伝統的な言語文化 教材化 地域の文化

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究開始当初は、幾つかの擬古文物語と和歌を中心とする「近世琉球の和文学」を学術的に解析する仕事はほとんどなされていなかった。したがって筆者は、それまで数年かけて研究してきた平敷屋朝敏(1700-1734)の擬古文物語に引き続き、他の和文学について、特に筆者が本来のフィールドとする平安王朝文学との関連性について考究したいと考えた。

(2) それと同時に、研究対象とした近世琉球の和文学群を教材として、特に沖縄県の小中高校生に広く紹介する手だてを講じたいと考えた。折しも、平成20・21年度に公示された各「学習指導要領」において、「伝統的な言語文化」が大きな目玉となったのを受けて、平成23年度から小・中・高と順次新たな国語教科書が発行された時期であった。「古典」と呼ばれるものを「伝統的な言語文化」と括り直すことについては賛否あるだろうが、しかし国際化社会だからこそ、他者と対峙するに足るアイデンティティを子どもたちに育むことは、教育の一端を担う我々の責務である。そして「伝統的な言語文化」は、「日本の伝統」のみならず「地域の伝統」を含んでしかるべきである(実際に平成23年度版の小学校国語教科書における「伝統的な言語文化」の単元では、「地域の伝統」もまた十分に意識されている)。ゆえに筆者としては、研究の成果を沖縄版「伝統的な言語文化」として、新学習指導要領に基づきつつ補助教材・副教材化するところまで、展開させたいと考えた。

2. 研究の目的

(1) 近世琉球の平敷屋朝敏作品に続く擬古文物語『雨夜物語』『恋路之文』について、ヤマト(日本)の、特に平安時代の散文作品からの影響関係を確認する。

(2) 近世琉球の和歌文学について、語彙や修辞上の特色や日本の和歌文学からの受容の実態などを明らかにする。

(3) 近世琉球の擬古文物語・和歌文学および日本の伝統芸能と関わりの深い組踊脚本を素材とする、沖縄版「伝統的な言語文化」の教材化(主として中・高校生向けの教材および大学生向けの講読テキスト)を進める。

3. 研究の方法

(1) 『雨夜物語』『恋路之文』の伝本を収集して翻刻し、本文の整定を行う。前者については複数の本の存在が知られるので、対校を行う。現代語訳を付すほか、平安時代の散文作品や平敷屋朝敏作品からの影響関係を意識しながら注釈を付けていく。

(2) 『沖縄集』『沖縄集二編』収載の和歌について語彙索引を作成することにより、その語彙的・表現的な特徴を捉えていく。その作業

を通して、日本の和歌文学からの影響を明らかにする。

(3) 平敷屋朝敏の擬古文物語4編および『雨夜物語』『恋路之文』について、小学館の新編日本古典文学全集(頭注・本文・現代語訳の三段組)をモデルにした教材を作成する。

4. 研究成果

(1) (2)以下に、研究期間を延長した最終年度を含む5年間の研究を、年度毎にまとめて述べていく。この間、勤務する琉球大学教育学部の同僚と企画した著作の内容に関わらせるために本研究の当初の予定と異なるルートを辿った部分がある。また、主として高校生に教材提供をするうえでの前提として、現在の高等学校の国語教科書の教材について知っておこうとしたことから、その問題点に気付き、幾つかの論考を執筆したことも、当初の予定になかったルートであった。そのぶん、予定していた擬古文物語や和歌の解析が十分に進まなかったところもある。また擬古文物語(特に『雨夜物語』)については、立正大学の島村幸一先生の研究グループが筆者に先んじて研究成果を発表された。その内容は、当初筆者が想定していたものであったため、筆者の研究の方向性を見直さざるを得なくなったところもあった。

(2) 2012年度について。

主として沖縄における「伝統的な言語文化」の教材化について手だてを考え、提案したい学びを幾つか活字にした。それは、2008年から2009年にかけて小・中・高等学校と相次いで改訂された学習指導要領に基づく新しい教科書が2011年度以降順次学校現場に導入され、教育学部所属の教員である筆者としては、国語教育専修の同僚とともに、それに対応する実践例などを提案しておく必要があったためである。それらは具体的には「古典の和歌を本歌取りしよう」「古典芸能の世界をのぞいてみよう」「故事成語を古文説話にしてみよう」というように、まずは日本(ヤマト)の文学や芸能をベースにするものであったが、それらを琉球生まれの文学や芸能に置き換えていくことで、本研究課題の「沖縄版『伝統的な言語文化』の教材化」に対応していけるという見通しを立てることができた。

(3) 2013年度について。

比喩的に言えば「地域の、地域による、地域のための」国語教育や教材開発について考え、論考執筆や口頭発表を行った。

日本学術振興会の出版助成を得ることができた『沖縄から考える「伝統的な言語文化」の学び論』を村上呂里氏と共同編集し、その第一章「「伝統的な言語文化」と地域 国語教科書の実際と沖縄における学びの可能性」を執筆し、今次の国語科学学習指導要領に

において地域における「伝統的な言語文化」がいかに意識され、またそれは各社から出版されている国語教科書（主として小学校）にいかにか教材として反映しているかを分析した。そのうえで、地域独特の言語文化を有する沖縄における国語科教師たちの取組の具体例を紹介した。

平敷屋朝敏の擬古文物語の一つである『貧家記』について、それが『土佐日記』『伊勢物語』あるいは『源氏物語』に強く影響を受けていることに着目し、『日本文学』62巻7号に小考を掲載したほか、西日本国語国文学会で口頭発表を行った。これらの発表を通して、日本（ヤマト）に生まれた著名な物語文学・日記文学の表現性を消化吸収し、みずから創り出す物語世界を豊かにしようとした近世琉球の文人・平敷屋朝敏の文学営為のありようを確認することができた。

やや派生的な研究であるが、古典文学について研究によって得られた知見と教科書や指導書あるいは学校現場で生徒に教示される内容との懸隔が気になり、その一例として柿本人麻呂の万葉集歌「東の野に炎の立つ見えて」について論考をまとめた。

(4) 2014年度について。

前年度に論考をまとめた平敷屋朝敏の『貧家記』と『若草物語』について、高校生向け教材に適した本文を整え、現代語訳と注釈を付ける作業を進めた。

前述の作業をしながら、前年度より新しい学習指導要領を受けて発行され使用され始めた高等学校の国語教科書に教材内容を一覧する必要を感じ、説話教材、『枕草子』、『源氏物語』、『徒然草』について、リストアップを始めた。これらについては適宜、授業において学生に紹介するなど活用した。この作業を通して、気がついた研究と現場の懸隔を、論考「「児のそら寝」の現在と可能性 平成二十五年度版「国語総合」教科書より」をまとめた。また、5種類発行されている小学校国語教科書の教材についても比較検討を加え、大学の同僚が編著した『おきなわ小学校国語授業のあじまー』に寄稿した。

(5) 2015年度について。

近世琉球期に書かれた擬古文『雨夜物語』について諸本を調査し、そのうち県立図書館三冊本「大島筆記」所収本、山内家蔵本「大島筆記」所収本、三井旧蔵本「大島筆記」所収本について、翻刻と対校作業を行った。

もうひとつの擬古文『恋路之文』について、那覇市歴史博物館で琉球資料所収の影印を調査し、翻刻を行った。こちらについては数少ない貴重な先行研究として、1963年3月に多和田真淳による紹介が琉球新報紙に連載されたことが判明したので、那覇市立図書館にて収集した。

前年度の作業を継続し、高等学校の教材の採録傾向を一覧表にまとめた。それを活かし

て、論考「高等学校国語教科書が導く『源氏物語』の世界 桐壺巻教材の「学習の手引き」などから」をまとめた。

(6) 2016年度について。

研究の延長申請を行った当年度は、二つの研究発表の機会が出来たため、そのコンセプトに本研究を摺り合わせる形になった。

北海道大学教育学院のオープンセミナーの招待発表（与えられたテーマは「学校教育に対する『国際化』の影響」）において、真の国際化は、人それぞれが生まれ育った郷土（地域）の文化多様性を尊重することを土台としてあるべきだという趣旨の報告をするべく、石垣島で生まれ育ち、八重山圏内の中学校で教鞭を執る国語教師による八重山の伝統歌謡「とぅばらーま」を用いた授業実践を取材、パワーポイントの資料にまとめた。

「伝統的な言語文化」を教材化するという本研究の目論見は、古典作品を現代の教育（学校教育のみならず生涯を通して学びたい人々への教育をも含む）にどのように再生させるかという課題に向き合うことだと言い換えられる。その実践として、日本文学協会大会でラウンドテーブル企画「「現在」に再生する『とりかへばや』」を3人の王朝文学研究者と共に行った。ここで古典が現在に「再生」するさまについて検討したことは、琉球の古典が現在の沖縄に「再生」するさまを確認するための一つのモデルとなるものである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計9件)

萩野敦子、高等学校国語教科書が導く『源氏物語』の世界 桐壺巻教材の「学習の手引き」などから、琉球大学言語文化論叢、査読有、13号、2016年、P119 - 130

萩野敦子、教材「児のそら寝」の現在と可能性 平成二十五年度版「国語総合」教科書より、琉球大学言語文化論叢、査読有、12号、2015年、P43 - 54

萩野敦子、理論編：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、『おきなわ小学校国語授業のあじまー』、査読無、2014年、P64 - 73

萩野敦子、古典文学と古典教材の懸隔 柿本人麻呂「東の」歌を例として、琉球大学言語文化論叢、査読有、11号、2014年、P63 - 74

萩野敦子、読む 和琉彩彩・平敷屋朝敏『貧家記』の世界、日本文学、査読無、2013年、P70 - 73

萩野敦子、教材研究・教材開発の視点、大城貞俊・田名裕治編『教師が学び生徒

が活きる 国語科授業づくりの視点と実践(中学・高校版)』、査読無、2013年、P49-72

萩野敦子、実践例：古典の和歌を本歌取りしよう、大城貞俊・田名裕治編『教師が学び生徒が活きる 国語科授業づくりの視点と実践(中学・高校版)』、査読無、2013年、P197-204

萩野敦子、実践例：古典芸能の世界をのぞいてみよう、大城貞俊・田名裕治編『教師が学び生徒が活きる 国語科授業づくりの視点と実践(中学・高校版)』、査読無、2013年、P205-214

萩野敦子、故事成語を古文説話にしてみよう、大城貞俊・田名裕治編『教師が学び生徒が活きる 国語科授業づくりの視点と実践(中学・高校版)』、査読無、2013年、P270-280

〔学会発表〕(計3件)

萩野敦子・勝亦志織・橋本ゆかり・片山ふゆき、ラウンドテーブル「『現在』に再生する『とりかへばや』」、日本文学協会第71回大会、2016年11月6日、二松学舎大学(東京都千代田区)

萩野敦子、沖縄におけることば・文化の継承を目的とした二つの教育実践 真の国際人を育てるために、北海道大学教育学院オープンセミナー、2016年7月24日、北海道大学(北海道札幌市)

萩野敦子、平敷屋朝敏『貧家記』の擬古、西日本国語国文学会、2013年9月14日、熊本大学(熊本県熊本市)

〔図書〕(計1件)

村上呂里・萩野敦子・大城貞俊・辻雄二・田場裕規、溪水社、『沖縄から考える「伝統的な言語文化」の学び論』、2014年、全294頁(P39-80)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者
萩野 敦子(HAGINO Atsuko)
琉球大学・教育学部・教授
研究者番号：90343376

(2) 研究分担者 なし
()
研究者番号：

(3) 連携研究者 なし
()
研究者番号：

(4) 研究協力者 なし
()